

# ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2023年11月8日時点)

▶ **ウクライナ軍**が南部及び東部の**露軍**に対する**攻撃を強化**する一方、**露軍**は、各正面において**防御戦闘を実施**するとともに、各地の**軍事・非軍事施設に対する攻撃を継続**している模様。

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人 (NYT8月18日)

: 死者約15万人 (「ウ」軍総司令官11月1日)

「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人 (NYT8月18日)

: 死傷者推定10万人以上 (クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)

「ウ」市民: 死者9,806人以上、負傷者1万7,962人以上 (UNOCHA10月8日)

- ・ アウディウカ市「ウ」軍政長は、**露軍砲兵・航空部隊がアウディウカ市内及び近郊の「ウ」軍拠点に対する激しい攻撃を継続**しており、特に航空攻撃に関しては**1日あたり4回から10回の空爆を実施**していると指摘(11月5日)
- ・ 「ウ」メディアは、「ウ」内相の声明を引用して露軍が5日夜にヘルソン州ドニプロ川沿い所在の2つの集落(ベリスラウ、クリンキー)に**12回の空爆、87発という記録的な数の爆弾を投下**と報道。また、同報道では、露軍は、「ウ」軍がクリンキーに橋頭堡を築くことを阻止する狙いがあると指摘(11月6日)
- ・ アウディウカ市「ウ」軍政長は、露軍が同市に対する**第三波攻撃の準備を終え、近く確実に**行われるとした一方で、**一週間にわたる激しい雨で地面の状態が深刻で装甲車の運用を困難**にしていると指摘(11月7日)

- ・ 「ウ」軍総司令官は、英誌エコノミストに現在の戦況に関する見解を提示し、現在の「ウ」軍に必要な**5つの優先事項**として、優先順に**①航空優勢、②改良された電子戦能力、③対砲兵能力、④地雷原突破のための新技術、⑤より多くの予備役を動員し訓練する能力**と指摘。また、効果的に戦場を可視化し、より迅速に意思決定するための**近代的な指揮統制システム**や、**兵站の合理化**が図られる必要がある旨指摘。さらに、**露軍を過小評価すべきではない**とし、現在は**露に有利な長期戦に突入**したとした上で、膠着状況を打開するには**技術的な飛躍が必要**だと指摘(11月1日)
- ・ 「ウ」国防省情報総局報道官は、**10月に露で製造された射程350km以上の弾道・巡航ミサイルは115発**に上るとした上で、**現在の露軍精密誘導弾の在庫は約870発**と指摘(11月6日)
- ・ エストニア軍情報機関長は、**露軍の保有装備**について、侵攻前は戦車9,000両、装甲兵員輸送車36,000両だったが、**現在でも戦車3,000両、装甲兵員輸送車12,000両を保有**していると指摘。また、**露の1月あたりの砲弾生産量は150万発に上るとの見積もり**を提示(11月7日)

- ・ 露国防省は、「ウ」軍が4日に**巡航ミサイル×15発**を使用してクリミア半島ケルチ市の**ザリフ造船所を攻撃**し、防空手段によって13発を撃墜したが1発が落下し、**艦艇×1隻が損傷**したと発表。露メディアは、今次攻撃で**仏供与の巡航ミサイル「SCALP」が用いられた可能性**を指摘(11月5日)。「ウ」軍報道官は、同攻撃により**露海軍巡洋艦「アスコリド」が損傷**したと指摘(11月6日)
- ・ 「ウ」空軍は、5日夜から6日未明にかけて露軍が無人機×22機、空中発射ミサイル×2発、対艦ミサイル×1発、「イスカデル」×1発により**オデーサ州、ヘルソン州、ミコライウ州を攻撃**し、うち「ウ」軍が無人機×15機、空中発射ミサイル×1発を撃墜と発表。同攻撃により**世界遺産に登録されているオデーサの歴史地区や美術館、集合住宅等が被害**を受けて**8名が負傷**したと発表(11月6日)

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域



国土院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等